

昭和四年
一月二十一日
檜山郡厚澤部村地震概況

函館測候所

昭和四年一月二十一日十二時零四分三十秒當函館に微震あり、初期微動の繼續十二秒にして東北東—西南西に振動す管内各地の報告によるも渡島半島各地に有感覺地震を見たるが如し然るに當所管内檜山郡厚澤部村大字館村地方に於て前記發震時刻に近似して強震起り次で二十二日に涉り二十數回の弱、微震あり、二十三日以後にありても數日間は日々三、四回の地震にて然も概ね鳴響と共に來ると。

館小學校長板谷馨、村醫吉岡惠吉兩氏より二十五日付を以て第一回の特報に接せり、即ち板谷校長の報告によれば

去る二十一日正午前後の頃當地にては珍らしき強震あり村民は殆ど全部戶外に逃れ、卓棚上の器物落下するもの少からざる程の強きにて振動の方向は判然せざるも上下動の如く而して其後數回に涉る地震あり二十二日朝に至る二十回は確に動搖本日二十五日にて四日を経過せるに毎日晝夜三、四回の地震あり、二十一日の如き強震にあらざるも本日夜明に一回並に午後三時半頃に一回あり近隣江差の如きは微弱なる地震を感じたるのみなりとの事なるも當地方村民は不安を感じ夜中安眠を得ざる程なり云々。

更に一月二十九日付にて村醫吉岡惠吉氏より再報あり其要領は

一月二十一日以來同夜及び翌二十二日午前六時に至る數分又は數十分を置き鳴響且地震數十回にて概ね鳴響を聞き一二秒にて地震起り二十四日來漸次回數を減少且つ震度も微弱となるも時々遠雷の如き鳴動ありて殆ど北西より來る云々。

以上の外再び三十日付により板谷館小學校長より爾後の狀況報告に次で厚澤村消防第一部長山添窪吉館村區長菅家藤平、厚澤部村長新納晴秋諸氏より震動狀況と村民恐慌の情報あり之等の諸報並に實況調査の結果を綜合し左に概況報告す。

檜山郡厚澤部村は檜山郡の北東部に位置し、山岳地にして、其北東部は茅部郡に東は龜田郡南東は上磯郡に接す、之等の郡界より出で、村内を貫流する三條の河川あり、村内を三區分せり、即ち北部を流るゝを安野呂川、中部を貫通するを鶉川とし、函館、江差間幹道は此鶉川の沿岸にあり、其南部には厚澤部流通し、農耕地は専ら此三川の沿岸に發達せり、館村は即ち厚澤部川の間部を占め同村の北部に丸山(一四二米)高丘台地あり、西より南西は四五〇米内外の山岳連亘、東部は焼木尻岳(五六一米)の裾野臺となり、南部は上磯郡界の臺地(二乃至三〇〇米)に圍續せられたる盆地にして厚澤部地管内唯一の農村なり。館村地方に於ける地震回数と同村小學校長板谷氏の手記に見るに。

- 一月三十一日 正午頃鳴動、強震にて卓棚上の器物落下時計振子止り位置を變ず。
- 一月二十二日 昨夜來弱震微震二十六回
- 一月二十三日 十回内外の地震あり
- 一月二十四日 十回内外内稍強きもの一回あり
- 一月二十五日 午前八時及び午後三時三十分頃と二回
- 一月二十六日 午前二時三十分、同四時三十分、同五時三十分頃の三回
- 一月二十七日 (校舎内にては無感なりしも市街地にて二三回の微震ありたりと)

一月二十八日 一

一月二十九日 午後三時頃一回

一月三十日 午前八時七分同十一時十五分(稍強)午後九時三十七分の三回

一月三十一日 一

二月 一日 午前二時同四時(稍強)午後五時五十分の三回

二月 二日 早朝二回及び午前九時三十分の三回

二月 三日 午後五時頃の一回

二月 四日 午後八時五十五分(二回連続にて稍強)の二回

二月 五日 午前六時及び午前九時頃と二回

此如く館村方面にては二十一日強震に次で連日の有感地震ありて漸次減少の傾向にあり、是等は所謂初發強震の餘震と見るべく、而して館村は常市に連續せる上磯郡の背後にあり、西北西方三十四軒の距離に過ぎざる以上連日有感地震の現象なるに當所備付微動計には以上の期間中唯一月二十四日十五時五十七分十秒及び二月二日二時二十三分四十三秒五發震の無感覺地震記象二回のみなるより見れば館村地方今回の地震は局部的狭少の範圍にあるものと推察せらる。即ち厚澤郡川流域の鷺ノ巢、館當路及び鶉川流域の木間田、大丁岱、鶉、俄虫並に安野呂川流域の安野呂等各村にて聽取したる概況を記するに

館

二十一日正午頃北西より「ドドン」と鳴響あり間髪を入れず家屋烈しく動搖且つ地下より撞き上げらるゝが如く戸障子の開閉困難に陥り粗雑なる家屋の二、三戸にては戸障子脱落せるあり、戸棚、卓上の器物の墜落時計の振子停止し屋内南側に懸垂る下振時計は西方に約三寸轉位停留せるもあり、一店舖にては北西より南東に並例せる縦横三寸奥行二尺の戸棚の西端は北へ、南端は西へ約一寸移動し、又は凸狀に盛れる灰は殆ど水平となりしが如く其他諸處に壁、内張紙及び庭土間に龜裂を生じ之を見するに壁、内張紙は孰も西及び東側に龜裂し、北南側に何等異狀なく、龜裂の狀況は概ね閃光形にて下部は西隅に起り斜に

六回の地震にて二十七、八日は無感なりしに再び二十九三十日各二回三十一日以後は殆ど静止の状況にて以上各回とも地鳴ありて瞬時に地震起り方向は始終同一にあり。

大丁岱 初め西方より「ゴー」と地鳴を聞き忽ち地震、家屋動搖著しく小學校事務室天上裏に約一尺五寸間隔に懸垂の釣ランブは相互に衝突せる程の振動にて戸、障子の騒音喧しく屋内西側に懸垂の時計は殆ど停止するに至れるも、館、鶉方面に比すれば一般に震動弱く此後二十二日に涉り弱微十八回の地震あり毎日殆ど鳴響に伴ひたり、同村小學校長の談によれば教員住宅井戸深さ十二尺平常約四尺の水深は地震前凡二尺減水し約瓶繩補足により汲水をなせり、當地に於ても地震と共に各戸の井水一時混濁を見たり而して二十三日來は時々微弱の地震ありしも震度漸次弱く且つ月末に至るに隨ひ回数著しく減少せりと。

木間内 木間内にては南四より水平動急激の地震數秒にて止む「ノシク」と鳴響したるのみにて鶉、大丁岱と同じく鶉川流域にあり最も上流に位置せるも下流二部落に比すれば震動顯著に弱く且又他方面は餘震回数に涉りたるに當部落にては翌二十三日及び二十四日各午後三時頃同方向に微震ありたるのみにて回数も顯著に寡し此附近南北の兩殖民地にても二十一日弱震あり其方向は孰も南西より北東に振動せりと。

俄虫 東方より「ドン」の音響と共に上下動の如き振動を感じて後水平動となり約一分内外の動搖をなし時計振子停止せるもの多數あり爾後更に五回の微震にて二十二日より三十一日に至る日々三乃至六回の微震を感じ二月初めは稀に微弱の振動ありしも五日以後は殆ど無感なりと。

安野呂 安野呂にては南東より北西に振動し水平動急激に來り家屋硝子窓等騒音を發し合地小學校事務室三脚臺上に置きたるフラスコは北西に墜落粉碎し且同校玄関コンクリート土間は一分餘の幅にて南東より北西に龜裂を生ぜり二十二日以後は數日間尙有感微震ありたるも僅數秒の振動なり

右の外隣接地方の檜山郡江差町にては二十一日十二時零三分三十秒稍急なる弱震あり南東より北東に振動せるも餘震を伴はず、又爾志郡乙部村にては二十一日十二時零五分南より北へ振動の弱震次で同日十三時十分及び一月三十日十一時二十七分孰も弱震にて南より北に振動の報告あり。

以上は今回厚澤部村及び近接地方に起りし地震の概況にして之によれば館村盆地に震度最も強く餘震

回数も最多にして之に次で厚澤部川上流域及び丸山臺地の北部より鶉村西半部即ち大丁岱以西鷹落附近にありて館村を中心に北西より南東に貫く長徑楕圓狀に漸次擴大して震度微弱に而して其振動區域は北西面は南東面に比し遙に廣大の地積を占む更に各地の振動方向を連結するに其副射點は凡そ丸山臺地の南部附近に集合するが如く館及び當路の強震地は恰も此幅射地域に屬す、當路にては既に該地震發生の約二十日前來井水減少の變兆あり鶉村部内大丁岱方面にても約一週間前に同じく井水の變化を認められたるは丸山臺地附近地層内に弱點發生の結果とも見られ今回の地震は即ち其變動に起因するが如し尙此附近地表異狀の有無を知るの要あるも積雪五尺の堆深にして實地踏査不可能なりしを以て他日の機會に譲れり、各地の震度及び振動並に庭、土間、龜裂方向等別紙圖面に記入添付す。

昭和四年一月二十日の地震

室蘭測候所報告

一月二十日九時〇八分五十八秒及十九時二十四分十四秒に當地方に微震ありたり當所地震計の記錄紙より調査するに當時は白老沖海底に震源あるものの如かりしも其後の調査に依るに有珠郡德舜督附近に震源あるものの如し